平成30年度

恵庭市教育委員会点検評価報告書

令和元年１１月

恵庭市教育委員会

目　　次

点検と評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

点検と評価の実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

平成３０年度恵庭市教育委員会点検・評価票

１　教育総務課
地区会館整備事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
地区会館防音機能復旧事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
小・中学校改造事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
小・中学校防音機能復旧事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・　６

２　学校教育課
地域活動における「ふるさと教育」の推進・・・・・・・・・・・・・　７
サマー・ウィンターセミナー事業・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
授業公開の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

３　教育支援課
「なかよしさわやかＤＡＹ全市交流会」の推進・・・・・・・・・・　９
スクールカウンセラー活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

４　学校給食センター
食物アレルギー対応指針に基づく安全安心な学校給食の対応・・・　１０
学齢期における食育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

５　社会教育課
コミュニティ・スクール事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
青少年育成事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
理科の体験学習の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
通学合宿等の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
郷土芸能の体験学習の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

６　読書推進課
ブックステーションの整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５
小中学校における図書整備の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５
学校図書館活動の推進及び充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６

７　郷土資料館
地域の遺跡・施設等の教材化と活用・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
郷土資料館事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

平成３０年度恵庭市教育委員会点検評価一覧・・・・・・・・・・・・　１８

点検と評価の概要

１　経緯

平成１９年６月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）が改正され、改正後の第２６条第１項において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（中略）の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」（**参考１**）と新たに規定されました。

２　目的

地教行法第２６条の点検及び評価（以下「点検と評価」という。）は、教育委員会が自ら立てた基本方針に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて点検と評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより市民に対する説明責任を果たすとともに、効果的で市民に信頼される教育行政を推進することを目的としています。

３　点検と評価の対象

本年度の点検評価においては、平成３０年度の教育行政執行方針及び重点推進項目に係る主要な施策・事業の実施結果を対象として点検と評価を実施します。

４　学識経験者の知見の活用

地教行法第２６条２項（**参考２**）の規定による学識経験者の知見の活用については、教育委員会の事務の点検と評価の客観性を確保する観点から、教育委員会が行った点検と評価について、教育に関し学識経験を有する３名から意見等を聴取する機会を設けることにしました。

意見提出者（3 名；敬称略）

点検評価委員　田　島　与　久（北海道文教大学人間科学部こども発達学科　教授）
同　　上　　結　城　健　介（恵庭市社会教育委員）
同　　上　　長　岡　秀　明（学校教育有識者）

※参考条文

地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

（参考１）第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

（参考２）２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検評価の実施方法

1　本年度の点検評価においては、「平成３０年の教育行政執行方針」及び「重点推進項目」に係る主要な施策・事業の実施結果を対象として点検と評価を行いました。
また、各施策・事業の「教育推進プログラム」における位置づけも確認しながら評価を行いました。

2　事業の評価の判断基準
必要性・効率性・有効性・公平性・優先性等の観点から、その達成度を総合的に判断して評価し４段階でランク付けを行いました。

A：想定した以上に達成・想定した以上に順調に進捗
B：想定どおり達成・概ね順調に進捗
C：一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった進捗にやや遅れが見られる
D：想定どおりには達成できなかった・想定したとおりには進捗していない

1 継続　　所管課　【　教育総務課　】

事業名（施策）	自己評価
地区会館整備事業の推進	**計画の達成状況** 今年度は、有明会館内部改修工事及び市民会館大ホール吊物設備改修工事を実施した。 工事施工に当たっては、事故も無く計画通り完成に至った。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：17.手を取り合い創造性を育む文化芸術	**課題及び今後の取り組み** 今後も必要に応じた改修工事を計画的に実施する。 市民会館については、耐震改修などを含め今後の施設整備のあり方を検討する。
教育推進プログラム（施策の方向）	
事業（施策）概要・計画（目標） 地区会館は、市民の一番身近な生涯学習施設として活発に利用されているが、建設より30年以上経過し、附帯設備の老朽化や利用者ニーズの多様化から附帯設備の更新や部分改修が必要となっている。 【平成30年度工事】 ・有明会館内部改修工事 ・市民会館大ホール吊物設備改修工事（3期）	**外部評価委員の意見** 市民の一番身近な生涯学習施設である市民会館は、耐震改修など、利用する市民にとって、関心が高い。市民の防災意識を考え、速やかに計画が進行することを期待します。

予算額（千円）	決算額（千円）
69,946	68,137
自己評価	**外部評価**
B	B

2 継続　　所管課　【　教育総務課　】

事業名（施策）	自己評価
地区会館防音機能復旧事業の推進	**計画の達成状況** 今年度は、東恵庭会館のボイラー更新工事を行い、また併せてアスベスト含有断熱材が含まれている煙突に対して撤去更新を行った。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：17.手を取り合い創造性を育む文化芸術	**課題及び今後の取り組み** 施設運営への影響を未然に防止するために、老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新していく。 また、アスベスト含有断熱材が含まれている煙突に対しては、ボイラー更新に併せて撤去更新を進める事とし、ボイラー更新工事が直近で無い場合においても、計画的に煙突の撤去更新工事を行う。
教育推進プログラム（施策の方向）	
事業（施策）概要・計画（目標） 設置後20年程度経過し老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新し、故障による施設運営への影響を未然に防止する。 【平成30年度工事】 ・東恵庭会館防音機能復旧工事	**外部評価委員の意見** 東恵庭会館のボイラー更新工事及びアスベスト含有断熱材煙突の撤去を計画通りに行ったことを評価します。今後も老朽化暖房用ボイラーの更新など計画的に進めるよう願います。

予算額（千円）	決算額（千円）
36,306	33,175
自己評価	**外部評価**
B	B

3 継続　　所管課　【　教育総務課　】

事業名（施策）	自己評価
小・中学校改造事業の推進	**計画の達成状況** 今年度は、恵庭小長寿命化工事の実施設計（北校舎分）、恵み野旭小トイレ改修工事（2期）、恵み野中トイレ改修工事（1期）、柏陽中講堂床改修工事を行った。 工事施工に当たっては、事故も無く計画通り完成に至った。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：16.子どもの自立成長を促す学校教育	**課題及び今後の取り組み** 今後は現状の劣化状況を確認し、緊急性の高い屋根改修やトイレ改修を計画的に実施する。また、学校全体に係る大規模な改修に関しては、各学校の長寿命化計画を策定し計画的に進めていきます。
教育推進プログラム（施策の方向）	
事業（施策）概要・計画（目標） 良好な学習環境を維持するため、施設の中規模改修（トイレ改修・屋根改修等）を計画的に実施する。 また、今後は長寿命化計画を策定し、学校施設全体の大規模な改修を計画的に進めることとする。 【平成30年度工事・設計】 ・恵み野旭小トイレ改修工事（2期） ・恵庭小長寿命化工事実施設計（北校舎） ・柏陽中講堂床改修工事 ・恵み野中トイレ改修工事（1期）	**外部評価委員の意見** 長寿命化工事の実施設計は評価します。トイレの改修は、学校の居心地がよい雰囲気づくりに大きな影響を与えます。屋根の改修を含め、大規模改修など、着実に計画を進めていただきたい。

予算額（千円）	決算額（千円）
236,364	203,434
自己評価	**外部評価**
B	B

4 継続　　所管課　【　教育総務課　】

事業名（施策）	自己評価
小・中学校防音機能復旧事業の推進	**計画の達成状況** 今年度は恵庭小学校講堂、若草小学校校舎のボイラー更新工事を行った。 また、アスベスト含有断熱材が含まれる煙突に対して、和光小学校校舎・講堂、恵庭中学校校舎・講堂に対して撤去更新工事を行った。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：16.子どもの自立成長を促す学校教育	**課題及び今後の取り組み** 学校運営への影響を未然に防止するために、老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新していく。 また、アスベスト含有断熱材が含まれている煙突に対しては、ボイラー更新に併せて撤去更新を進める事とし、ボイラー更新工事が直近で無い場合においても、計画的に煙突の撤去更新工事を行う。
教育推進プログラム（施策の方向）	
事業（施策）概要・計画（目標） 設置後20年程度経過し老朽化している暖房用ボイラーを計画的に更新し、故障による学校運営への影響を未然に防止する。 【平成30年度工事・設計】 ・恵庭小講堂防音機能復旧工事 ・若草小校舎防音機能復旧工事 ・和光小校舎・講堂煙突石綿対策工事 ・恵庭中校舎・講堂煙突石綿対策工事	**外部評価委員の意見** 恵庭小学校講堂及び若草小学校校舎のボイラー更新工事が事故なく計画通り完成したことを評価します。アスベスト含有断熱材が含まれる煙突については、含有材の完全交換（終了）が済んでいることを確認すべきと考えます。

予算額（千円）	決算額（千円）
184,479	170,787
自己評価	**外部評価**
B	B

5 新規　　所管課　【　学校教育課　】

事業名（施策）
地域活動における「ふるさと教育」の推進

第5期総合計画での区分

基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	16.子どもの自立成長を促す学校教育

教育推進プログラム（施策の方向）

地域との連携を図った「ふるさと教育」の推進

事業(施策)概要・計画（目標）

地域に根ざし地域に開かれた学校づくりを推進し、地域と協働で活動に取り組むことにより、子どもたちのふるさとに対する理解を深め、ふるさとを愛する心を育成する。

① ふるさと教育の全体計画を作成し、地域等と連携
② 地域人材を活用した教育活動の実践
③ 町内会等と連携し、地域に密着した取組の推進
④ 花のまちづくりなど地域の特色ある学習の推進

予算額（千円）	決算額（千円）
0	0
自己評価	外部評価
B	A

自己評価

計画の達成状況

毎年、学校での総合学習などにおいて地域と協働して「ふるさと教育」を行うとともに、郷土に関する調べ学習や体験学習などを紹介する壁新聞を作成している。また、児童・生徒が「しままつ鳴子まつり」でよさこい踊り・すずらん踊りを披露したり、「柏木川プロジェクト」での川遊びを通した学習、町内会の「もちつき大会」などに参加した。

課題及び今後の取り組み

・ふるさと教育を行う地域人材の確保
・町内会・自治会との連携強化

外部評価委員の意見

地域に根ざし地域に開かれた学校づくりを推進するうえで、各学校が行っている「ふるさと教育」が、着実に具体化され多くの学校で成果を上げていることを讃えます。今後の取り組みとして、コミュニティ・スクールの推進との関連や、郷土資料館との連携についての表記を望みます。

6 新規　　所管課　【　学校教育課　】

事業名（施策）
サマー・ウィンターセミナー事業

第5期総合計画での区分

基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	16.子どもの自立成長を促す学校教育

教育推進プログラム（施策の方向）

教師の資質能力の向上を図る研修活動の充実

事業(施策)概要・計画（目標）

教員の資質向上を図ることを目的として、恵庭市教育研究協議会との共催により、夏季・冬季の休業期間に、特別支援教育やヒューマン・コミュニケーション、ふるさと教育、その他学校を取り巻く様々な課題に即した研修を実施する。

予算額（千円）	決算額（千円）
280	250
自己評価	外部評価
B	A

自己評価

計画の達成状況

30年度はサマーセミナー5講座、ウインターセミナー5講座を開催した。

※サマーセミナーで「ヒューマン・コミュニケーション講座」を2コマ開催

課題及び今後の取り組み

・教員のニーズに合った内容や日程での実施
・より多くの教員に受講してもらうための工夫

今後もアンケート結果をもとに、恵庭市教育研究協議会と連携しながら企画運営を行う。

外部評価委員の意見

講座数も確保され、多くの教員が今日的な教育課題に対し、研修できる場が設定されていることを大いに評価します。特に「ヒューマン・コミュニケーション講座」は、学級づくりや人間関係づくりに有効と考え、継続開催を望みます。また、教員の加重を強いる日程にならないよう配慮しながらの推進を願っています。

7 新規　　所管課　【　学校教育課　】

事業名（施策）	自己評価
授業公開の推進	**計画の達成状況** 各校で授業参観を公開で実施したほか、土曜日の教育活動（土曜授業、土曜スクール）の実施、さらには学校運営協議会での活動を通して、学校経営について地域や保護者に理解を得ながら、それぞれ連携した取組を推進した。 また、授業公開に関する情報は、学校だよりやホームページにより効果的に発信した。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：16.子どもの自立成長を促す学校教育	**課題及び今後の取り組み** ・講師となる地域人材の確保 ・学校運営協議会との連携 ・公開授業への参観者を増やす方策
教育推進プログラム（施策の方向） 地域や保護者への積極的な情報の発信	**外部評価委員の意見** 市内の小中全13校が、土曜授業を含み年2回授業公開を行ったことは、教育委員会の指導はもとより、教員自らの「授業」への積極性や、授業の「評価」を受けるという謙虚な姿勢を讃えます。今後多くの父母が参加できる工夫や、授業公開後の話し合いの概要等をHPで発信するなどの取り組みを期待します。
事業（施策）概要・計画（目標） 学校の教育活動を積極的に公開することにより、学校教育に関する一層の理解を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ① 学校の教育活動への理解や関心を高めるよう、積極的に授業公開を行う。 ② 授業公開にかかる情報を計画的・効果的に発信する。	

予算額（千円）	決算額（千円）
0	0
自己評価	**外部評価**
B	B

8 新規　　所管課　【　　教育支援課　　】

事業名（施策）	自己評価
「なかよしさわやかDAY全市交流会」の推進	**計画の達成状況** ①7月17日実施、参加児童生徒58人。 ②交流会内容をフィードバックし、各学校にていじめを考える機会を設けている。 ③当日のアンケート内容を含めた事業実施報告書をまとめ、各校に配布。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：16.子どもの自立成長を促す学校教育	**課題及び今後の取り組み** 上記内容を今後も継続し行う。
教育推進プログラム（施策の方向） 子どもの生活やいじめの実態把握と課題の早期解決	
事業(施策)概要・計画（目標） 事業概要：各学校の児童会・生徒会代表が集い、いじめ問題について情報交換や意見交換を行い、いじめ根絶に向けた取組の充実を図る 事業計画： ①いじめ問題の現状や課題、いじめ防止についての意見交流を推進する。 ②全市交流会を踏まえた各学校によるいじめ防止活動の推進 ③全市交流会での情報を組織還元し、各学校の取組の充実を図る。	

予算額（千円）	決算額（千円）
62	62
自己評価	外部評価
B	B

外部評価委員の意見

長年にわたる「全市交流会」の開催が、いじめ防止運動の意識付けになっており、大いに評価します。この取り組みは、社会的にも非常に関心の高い内容と思われますので、プライバシー等の個人情報に配慮しつつ、概要の交流の場などで市民にも提供できるような方策を検討していただきたい。

9 新規　　所管課　【　　教育支援課　　】

事業名（施策）	自己評価
スクールカウンセラー活用	**計画の達成状況** ①相談件数：児童生徒238件、保護者346件、教職員557件。 ②引きこもり児童生徒については相談要望がないため実績なし。 ③研修会については未実施。メンタルフレンドについては子どもとの関わりについて個別ケース毎助言をし、教職員、保護者に対してはカウンセリングという形で関わっている。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：16.子どもの自立成長を促す学校教育	**課題及び今後の取り組み** 引き続き、活動時間数を確保しつつ事業を継続していく。
教育推進プログラム（施策の方向） 不登校・引きこもりの子どもたちへの学校復帰や適切な人間関係を構築する力・豊かな社会性を育むことへの支援	
事業(施策)概要・計画（目標） 事業概要：児童生徒の臨床心理に関する専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーを配置し、不登校・引きこもり等に関する教育相談体制の充実や教職員等の資質向上を図る。 事業計画： ①各学校の児童生徒、教職員、保護者等への相談活動 ②家庭訪問等による引きこもり児童生徒への支援 ③メンタルフレンド、教職員、保護者等に対する研修会	

予算額（千円）	決算額（千円）
4,340	4,116
自己評価	外部評価
B	B

外部評価委員の意見

児童生徒の相談はもとより、保護者や教職員との相談に児童生徒以上の件数に対応していることに、頭が下がる思いです。専門家によるカウンセリングが必要とされている今日、児童生徒の心に寄り添う対応になるよう一層の取り組みの充実と、教職員の意識化のための研修会を是非実施していただきたい。

10 継続　　所管課　【　学校給食センター　】

事業名（施策）
食物アレルギー対応指針に基づく安全安心な学校給食の対応

第5期総合計画での区分	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	08.夢と健康を育むまち

教育推進プログラム（施策の方向）

安全安心な学校給食の充実と栄養教諭を中心とした食育の推進

事業（施策）概要・計画（目標）

計画的な施設・設備、厨房機器の更新整備を行い、衛生管理の徹底と職員の健康管理を図り、食中毒の発生や異物混入の未然防止に努め、新鮮で安全・安心な地場産食材の活用を進め、栄養バランスのとれた、よりおいしい給食の提供と食物アレルギー児童・生徒への対応食の充実を図るとともに、放射能汚染に対し万全を期していきたい。

《具体的目標》
①衛生管理の徹底
②地場産食材の活用
③食物アレルギー対応食の充実
④放射能汚染対応等安全な食材の使用

予算額（千円）	決算額（千円）
281,181	279,966
自己評価	外部評価
B	A

自己評価

計画の達成状況

①衛生管理の徹底
　朝昼2回職員の衛生検査と調理作業の点検確認を行った。
②地場産食材の活用
　米飯は、恵庭産ななつぼし、パン・麺は道内産の小麦を使用。地場産野菜の年間使用量134,999kg（うち恵庭産11,640kg）、年間使用割合9%
③食物アレルギー児童・生徒への対応
　家庭・学校・センター連携のもと、綿密な確認に努めた。（アレルギー児童・生徒数247名、全生徒数の4.3%）
④放射能汚染へ対応
　食材の選定は、放射性物質の検査結果や産地情報をもとに行い、その内容はホームページで公表した。

課題及び今後の取り組み

①老朽化した施設・設備及び厨房機器、食器等の改修・更新を、計画的に継続する必要がある。
②地場産野菜については、市場価格を勘案しながら、使用の拡大に努めたい。
③アレルギー対応については、保護者や学校現場の意見も取り入れながら、アレルギー対応について見直す必要がある。
④食材の安全性を確認しながら使用に努めたい。

外部評価委員の意見

衛生管理の徹底や地場産食材の活用はもとより、食物アレルギーや放射能汚染への対応など、大変望ましい取り組みを継続しています。今後とも食材の安全性の認識やアレルギー対応など、安心安全な学校給食の取組みを進めるとともに、食物アレルギー対応の見直しは、即、市民にも周知するよう願います。

11 継続　　所管課　【　　学校給食センター　　】

事業名（施策）
学齢期における食育の推進

第5期総合計画での区分	
基本目標	2.だれもが健康で安全安心に暮らせるまち
目　　標	08.夢と健康を育むまち

教育推進プログラム（施策の方向）

安全安心な学校給食の充実と栄養教諭を中心とした食育の推進

事業（施策）概要・計画（目標）

市教委では、「恵庭市食育推進計画」のうち学齢期における食育の推進を担っており、各学校の「食に関する指導の全体計画」に基づき、栄養教諭を中核とした教職員連携による児童・生徒の健康の保持増進や、望ましい食習慣を育成するための給食時間を活用し、学校給食を生きた教材とした食に関する指導や教科における指導の充実に努める。

また、家庭に対しては、食育に関する情報の提供に努め、試食会などを開催し、地場産食材を活用した給食メニューの紹介を図りながら食生活の改善と健康増進に寄与する。

《具体的目標》

①給食時間・教科における食指導の推進
②家庭への情報提供の推進
③試食会、食育展示、学校給食展の開催
④料理教室の開催

予算額（千円）	決算額（千円）
0	0
自己評価	外部評価
B	A

自己評価

計画の達成状況

①給食時間・教科における食指導の推進

給食時間の指導は、実態に応じて実施したほか、教科における指導は、小学校では学級別指導を進めたほか、中学校では保健体育や総合学習の時間等で、学級別指導を行った。

②家庭への情報提供の推進

毎月の給食だよりの裏面を活用し、「食育」に関する情報提供を継続的に実施した。

③給食試食会、学校給食展の開催

学校給食を理解してもらう機会の提供としての試食会を実施（参加者1,004名）、食育推進月間の6月11日から29日に食育展示を行った。

④料理教室の開催

北海道文教大学と共催で、11月4日（日）に北海道文教大学を会場として、小学校1～3年生及び保護者を対象とし「恵庭産を食べよう」をテーマに料理教室を開催した。参加者39名（小学生20名、保護者19名）

課題及び今後の取り組み

学齢期における食育の推進は、学校給食を生きた教材として活用しながら、栄養教諭を中核とした教職員による学校での食に関する指導はもとより、家庭や地域との連携、市教委の支援等、推進体制の充実に努めるとともに、「学校給食展」や「給食だより」等による情報提供や地場産食材を活用することにより、生産者や食への感謝と地域の自然や文化、産業の理解を深めるという教育効果が期待される。

外部評価委員の意見

学校でのきめ細かな食指導の推進や家庭への適切な情報提供に加えて、給食試食会、 学校給食展の開催や料理教室の実施は、学齢期の食育の大切さの理解を深めています。今後、より効果的な情報提供のための予算措置があってもよいと思います。

12 継続　　所管課　【　社会教育課　】

事業名（施策）	自己評価
コミュニティ・スクール事業	**計画の達成状況** 平成30年度 恵み野・島松で実施する恵庭版コミュニティスクールの年度計画に沿った支援及び、平成29年度から導入を開始している文科省型コミュニティ・スクール事業（学校運営協議会）において、平成30年度は若草小・柏陽中学校区で導入され、小中連携による取り組みも生まれた。さらには恵庭小・松恵小・恵庭中学校区において平成31年(令和元年)度からの導入に向けた準備委員会の実施を通し、学校・家庭・地域の理解を深めることができた。 **課題及び今後の取り組み** コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の5カ年計画に基づいた計画的な実施に向け、学校・家庭・地域の理解を進めること。恵庭版コミュニティスクールを実施している恵み野・島松小学校区における学校運営協議会の導入にあたって施策の位置づけを整理し、住民へ周知をすると共に理解を進めることが課題である。 *R1年7月現在、島松地区において小中学校長及び恵庭版コミスク関係者による実務者協議が始まったところである。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：16.子どもの自立成長を促す学校教育	**外部評価委員の意見** 新しい「コミュニティ・スクール」への対応について、着実に進められていることを評価します。今後、恵庭版CSの土壌がある地域と、新しく制度の導入を図ろうとする地域では、温度差も大きいと思われるため、令和3年度の全地域実施に向けて、市教委の十分なサポートや情報提供が必要であり、そのための施策の構築や各校との連携を密にすることが肝要と考えます。
教育推進プログラム（施策の方向） 地域と学校が一体となった教育活動の推進	
事業(施策)概要・計画（目標） [ねらい] 保護者や地域の方々が学校運営に参画することにより、学校・家庭・地域社会が一体となってより良い教育の実現に取り組み、地域全体の活性化を目指す。 [目標] 恵庭版コミュニティスクールの継続的な支援に加えて、文部科学省が推進するコミュニティ・スクール（学校運営協議会）をH29年度から全校区に5ヵ年計画で設置する。	

予算額（千円）	決算額（千円）
460	287
自己評価	**外部評価**
B	B

13 継続　　所管課　【　社会教育課　】

事業名（施策）	自己評価
青少年育成事業の推進	**計画の達成状況** 平成30年度 「青少年育成市民の会」加盟団体に対し、会の年度内事業の実施状況を報告するなど、会の活動に対する関心を深めることで、団体間の連携を深めることに努めた。 **課題及び今後の取り組み** 各加盟団体の事業等情報の提供や、人材に関する情報収集などに関する検討・調整が必要。
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：16.子どもの自立成長を促す学校教育	**外部評価委員の意見** 「青少年育成市民の会」加盟団体との連携に努めることは、ふるさとに生きる子どもの育成を目指した地域づくりを進めるため、大切なことと考えます。各加盟団体の事業等の情報の提供や人材に関する情報収集など、計画が着実に推進されることを望みます。
教育推進プログラム（施策の方向） 地域や企業の青少年育成活動への啓発や支援	
事業(施策)概要・計画（目標） [ねらい] ふるさとに生きる子どもの育成をめざした地域づくりを進めるため、青少年育成関係団体と連携し、ふるさと教育を推進する。 [目標] 青少年の健全育成に関わる団体で構成される「青少年育成市民の会」の、各加盟団体の事業・人材の情報等を共有し、団体間の連携を深め、効果的な事業の推進を図る。	

予算額（千円）	決算額（千円）
79	79
自己評価	**外部評価**
B	B

14 継続　　所管課　【　社会教育課　】

事業名（施策）
理科の体験学習の推進

第5期総合計画での区分	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	15.心豊かな思いやりをもった子どもの育成

教育推進プログラム（施策の方向）

理数科への興味・関心を高める事業の推進

事業(施策)概要・計画（目標）

[ねらい]
子どもが気軽に参加できる理科の実験・観察を開催し、理科学習への興味・関心を高める。

[目標]
理科への興味・関心が高まるよう事業内容を工夫し、継続した実施に向けボランティア団体と調整を図る。

予算額（千円）	決算額（千円）
93	44
自己評価	外部評価
B	A

自己評価

計画の達成状況

平成30年度
子どもへの多様な体験活動の提供として実施している「恵庭子ども塾」のプログラム「おもしろ理科実験教室」として、平成30年度より春と秋の年2回に開催を増やした。また、1回あたりの定員も25名から30名に増やし、1日に午前・午後の各2回開催した。（春50名・秋25名）。

課題及び今後の取り組み

毎年人気の高いプログラムであることから、平成31年(令和元年)度においても引き続き年2回の開催を継続する。
また、現在講師を依頼しているボランティア団体との連携・調整は安定しているが、回を重ねていく中につれて新たな講師の発掘も図る必要がある。

外部評価委員の意見

参加者も多く、回数も増え、充実した教室が開催できたことを讃えます。また、千歳科学技術大学への講師依頼は専門性が高く、大いに評価できます。新たな講師の発掘は、本事業継続の大きな強みになると考えますことから、そうした面をはじめ、予算面、や開催場所等を検討し、更なる取り組みの充実を期待します。

15 継続　　所管課　【　社会教育課　】

事業名（施策）
通学合宿等の推進

第5期総合計画での区分	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	15.心豊かな思いやりをもった子どもの育成

教育推進プログラム（施策の方向）

心を育む体験活動の充実

事業(施策)概要・計画（目標）

[ねらい]
子どもたちが共同で生活体験することにより、自立心・忍耐力・協調性や社会性を身につけ、子どもたちの生活力の向上を図る。地域住民で実行委員会を組織して運営を進めることにより「地域の子どもは地域で育てる」意識を醸成し、地域の教育力の向上を図る。
[目標]
通学合宿未実施地区への働きかけを行うとともに、現実施地区の継続的な運営を進めるための支援を行う。

予算額（千円）	決算額（千円）
120	63
自己評価	外部評価
B	B

自己評価

計画の達成状況

平成30年度
平成29年度に引き続き、5小学校区で地域住民がそれぞれ主体的に実施した。

課題及び今後の取り組み

通学合宿支援者の高齢化に伴う世代交代をはかるため、保護者説明会で支援者への参加を呼びかける事や、SNS等を活用した新たな周知・広報手段の模索・検討、中学校との連携強化により、通学合宿への参加経験がある児童・父母を始めとした若年層が支援者となる流れの醸成をはかる。
実施困難地区の実施・再開に向け、コミュニティ・スクールの導入と連動する等を検討し、体験機会の充実を目指す。
*令和元年度は新たに1小学校区において実施する予定。

外部評価委員の意見

通学合宿が、各地区(5小学校区)の地域住民の手で独立して継続実施がなされ、良い方向へ進んでいるように思います。この事業は、CSを立ち上げるための基になる活動ともなっていることから、その意義についてSNSなどを活用したPRを工夫したり、より多くの子が参加できるよう、行政側の適切な支援をお願いします。

16 継続　　所管課　【　社会教育課　】

事業名（施策）	自己評価
郷土芸能の体験学習の推進	**計画の達成状況** 平成30年度 すずらん踊り：小学校4校、中学校1校、6町内会、2自衛隊に派遣し、技術指導を実施（参加者1,080人） 恵庭岳太鼓：小学校1校に派遣したほか、随時体験可能な技術指導を週3日（計147回）実施
第5期総合計画での区分 基本目標：4.人が育ち文化育むまち 目標：17.手を取り合い創造性を育む文化芸術	
教育推進プログラム（施策の方向） ふるさと文化の学びと継承・発展	**課題及び今後の取り組み** すずらん踊りDVDの活用やプレゼンテーション機器による踊りの啓発を推進。 各小学校区において郷土芸能に取り組むことを目指す。
事業（施策）概要・計画（目標） 「すずらん踊り」、「恵庭岳太鼓」等、郷土芸能の伝承発展に努め、ふるさとを愛する心を培うために学校や地域に指導者を派遣し、郷土芸能を紹介するとともに、総合的な学習の時間、学校行事等を活用した郷土芸能の体験学習を推進する。	**外部評価委員の意見** すずらん踊りや恵庭太鼓の派遣は、ふるさとえにわを愛する心を培う貴重な取り組みです。技術指導の実施など一定の成果を上げていることを讃えます。今後、郷土芸能に触れる機会をさらに計画的に進めていただきたい。

予算額（千円）	決算額（千円）
266	266
自己評価	外部評価
B	B

17 継続　　所管課　【　読書推進課　】

事業名（施策）
ブックステーションの整備

第5期総合計画での区分

基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	16.子どもの自立成長を促す学校教育

教育推進プログラム（施策の方向）

学校や家庭での読書活動の推進

事業(施策)概要・計画（目標）

○事業概要
図書館サービスの一つとして、公共施設に図書館蔵書の予約・検索・予約図書の受取りができるシステムの配備及び配本・返却機能を有するブックステーションを設置し、市民サービスの充実を図る。
○目標
市全域を包括する図書館サービスネットワーク構築の推進を図り、きめ細かい図書館機能の提供を図る。

予算額（千円）	決算額（千円）
279	279
自己評価	外部評価
B	B

自己評価

計画の達成状況

黄金ふれあいセンター(H24設置)に続いて、平成28年9月に「恵庭市生涯学 習施設かしわのもり」にブックステーションを設置。円滑な運営に努めた。

（黄金ふれあい貸出状況）
・利用者数　2,004名
・貸出冊数　3,125冊
・開館日数　335日
・一日平均　9.3冊

（かしわのもり貸出状況）
・利用者数　957名
・貸出冊数　1,603冊
・開館日数　335日
・一日平均　4.8冊

課題及び今後の取り組み

だれもがいつでもどこでも等しく読書活動に親しむことができるように、図書館から遠い地区等に、ブックステーションを計画的に設置する必要がある。

外部評価委員の意見

図書館ネットワークの推進が順調に行われ、市民のための優れた機能を発揮しています。特に、貸出者数をはじめ、貸出冊数や予約冊数が一定の成果を出しており、PR等、関係者の努力を評価します。高齢者が多くなることを踏まえ、図書館から遠隔の公共施設へのブックステーションの計画的な整備を願っています。

18 継続　　所管課　【　読書推進課　】

事業名（施策）
小中学校における図書整備の充実

第5期総合計画での区分

基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	16.子どもの自立成長を促す学校教育

教育推進プログラム（施策の方向）

学校や家庭での読書活動の推進

事業(施策)概要・計画（目標）

◇学校図書館の図書整備
・平成30年度予算額
小学校 2,830千円　中学校 1,887千円
・平成30年度決算額
小学校 4,639千円　中学校 2,774千円
＊「子どもの読書活動を支える寄附制度」による追加予算額
小学校 1,810千円　中学校 889千円

予算額（千円）	決算額（千円）
4,717	7,413
自己評価	外部評価
B	A

自己評価

計画の達成状況

◆ 小学校図書館蔵書冊数（H30年度実績）
80,782冊[児童1人当り 20.1冊 ＊1校当り平均冊数 10,098冊
＊学校図書館図書標準　8校全校100％達成
◆ 中学校図書館蔵書冊数（H30年度実績）
58,934冊[児童1人当り29.6冊 ＊1校当り平均冊数 11,787冊
＊学校図書館図書標準　5校全校100％達成

課題及び今後の取り組み

○ 課題
・学校図書の計画的更新の推進
・学校図書館の図書標準率100％の継続
○ 今後の取り組み
・教科等における学校図書館の効果的活用の促進
・調べ学習に対応できる図書の計画的な整備

外部評価委員の意見

学校の図書館は、子どもが沢山の本に触れられる身近な場所です。恵庭市内小中学校13校全てが標準100%を達成していることは喜ばしいです。今後とも計画に基づいて推進されることを期待するとともに、高校生以上の方への図書館利用についての取り組みも是非進めていただきたい。

19 継続　　所管課　【　読書推進課　】

事業名（施策）
学校図書館活動の推進及び充実

第5期総合計画での区分	
基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	16.子どもの自立成長を促す学校教育

教育推進プログラム（施策の方向）

学校や家庭での読書活動の推進

事業(施策)概要・計画（目標）

◎ 学校図書館の整備充実により児童生徒の調べる学習活動の支援と読書活動の活性化の促進
○ 学校図書館活動の充実
・学校司書の配置　・学校図書館配本システムの充実
・教科学習及び調べ学習支援の充実
・調べる学習コンクールの開催
・司書教諭及び学校司書等研修会の実施
○ 学校図書館情報ネットワークの構築
・図書情報及び図書資料の共有化の推進
○ 図書ボランティアの育成支援
・ボランティア研修会及び交流会の実施

予算額（千円）	決算額（千円）
28,053	28,207
自己評価	外部評価
B	A

自己評価

計画の達成状況

・司書教諭、学校司書の研修による情報共有と提供
　＊司書教諭等合同研修会、学校司書研修　各2回実施
・システムネットワーク及び配本システムによる、図書館と学校間の図書の共有化と相互貸借の促進
＊貸出実績 「図書館団体貸出」14,460冊 「学校間貸出」2,763冊
・調べる学習コンクールの実施 ～ 応募参加者582名
・年間1人当たり貸出冊数～ 小学校63.8冊　中学校22.9冊

課題及び今後の取り組み

○ 課題
・学校図書館を活用した教科学習支援
・学校内における司書教諭、図書ボランティアの支援・協力体制の確立
○ 今後の取り組み
・読みたい本がある学校図書館づくり
・図書資料の量的整備から質的整備の推進
・読書活動を推進する体制づくり（学校図書館指導計画の作成）

外部評価委員の意見

学校図書館が、司書を中心に充実した運営がなされており、また、各学校での図書ボランティアの協力体制も十分構築されていることを高く評価します。特に、小学校では年間一人当たり60冊以上の貸出があり大変好ましい。調べる学習コンクールの継続や授業での活用など、学校の図書・図書館が一層活用されるように願っています。

20 継続　　所管課　【　郷土資料館　】

事業名（施策）
地域の遺跡・施設等の教材化と活用

第5期総合計画での区分

基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	17.手を取り合い創造性を育む文化芸術

教育推進プログラム（施策の方向）

地域の遺跡・施設等の教材化と活用

事業(施策)概要・計画（目標）

（目標）
史跡カリンバ遺跡を市民共有の財産として有効に活用を図りつつ良好な状態で後世に継承するため、H28年3月に「史跡カリンバ遺跡整備基本計画」を策定した。 事業の進め方は、ガイダンス施設と環境整備を優先し、基本計画、実施設計そして各種整備を進める方針として第5期総合計画に位置付けをした。

（事業）
○史跡カリンバ遺跡水文環境調査
○史跡カリンバ遺跡各種啓発事業実施
○史跡カリンバ遺跡環境整備

予算額（千円）	決算額（千円）
3,295	2,922
自己評価	外部評価
B	B

自己評価

計画の達成状況

○史跡整備に向けて水文環境調査を継続して行い、目標どおり地下水と表流水の現況を把握した。
○「カリンバ講演会」や「カリンバ土曜講座」、「カリンバまつり」、「カリンバ遺跡重要文化財展」などを開催し啓発に努めた。
○史跡の保護、整備の啓発を目的としたごみ拾いと花壇づくりを、地域住民やボランティアと共に5月に実施。草刈は業者委託により6月と8月の2回実施。

課題及び今後の取り組み

（課題）
財政収支計画等との整合性を図りながら、ガイダンス施設や公園等史跡整備の早期実現を図りたい。
（今後の取り組み）
史跡整備に必要な水文環境調査や恒久的な史跡境界標の設置などを、引き続き行う。また、史跡の環境整備や各種啓発事業も継続実施する。

外部評価委員の意見

史跡整備に向けた水文環境調査やカリンバに関する多くのイベント開催が円滑に行われており、大いに評価できます。また各種レベルで市内の遺跡の紹介や啓発の取り組みは、次第に市民に浸透していくものと考えます。ボランティアの高齢化にも配慮しつつ、大きな課題である「ガイダンス施設」や公園等史跡整備が計画的にかつ早期に実現することを期待します。

21 継続　　所管課　【　郷土資料館　】

事業名（施策）
郷土資料館事業の充実

第5期総合計画での区分

基本目標	4.人が育ち文化育むまち
目　標	17.手を取り合い創造性を育む文化芸術

教育推進プログラム（施策の方向）

遺跡・施設等を活用した学習の推進

事業(施策)概要・計画（目標）

（目標）郷土の歴史等に関する資料を収集・保管・展示公開することで、より多くの市民に郷土「恵庭」に対する意識を深めていただくことに貢献する。
（事業）
○展示事業
○体験学習・観察会等の教育普及事業
○ふるさと教育宅配事業
○資料保存事業

予算額（千円）	決算額（千円）
612	443
自己評価	外部評価
B	B

自己評価

計画の達成状況

○展示事業：企画展「恵庭の交通史」等9件
○教育普及事業：【体験学習】「化石レプリカづくり」等4件参加者500人
【観察会】「星空観察会」 2回 参加者36人
○ふるさと教育宅配事業：市内8小学校に対し資料32点を4テーマに分けて巡回貸出し
○資料保存事業：8ミリフィルムデジタル化事業
平成30年度入館者数：7,721人

課題及び今後の取り組み

（課題）
20,000点を越える収蔵資料の管理・活用と学校教育との連携
（今後の取り組み）
・収蔵資料の保存管理と展示・体験学習への有効活用
・ボランティア団体との協力体制の充実
・学校教育への情報提供と連携の強化

外部評価委員の意見

市民が親しみながら、自分の町の歴史を知る「恵庭歴史の散策会」は、市民の郷土意識の向上や深化に役立つ行事となると考えます。今後とも、所蔵資料の有効活用をはじめ、学校との連携を強め、学校でのふるさと教育にも大いに活用されるよう願っています。

令和元年度（平成30年度事業）恵庭市教育委員会点検評価一覧

課	番号	新・継	事業名	自己評価	外部評価
教育総務課	1	継	地区会館整備事業の推進	B	B
	2	継	地区会館防音機能復旧事業の推進	B	B
	3	継	小・中学校改造事業の推進	B	B
	4	継	小・中学校防音機能復旧事業の推進	B	B
学校教育課	5	新	地域活動における「ふるさと教育」の推進	B	A
	6	新	サマー・ウィンターセミナー事業	B	A
	7	新	授業公開の推進	B	B
教育支援課	8	新	「なかよしさわやかDAY全市交流会」の推進	B	B
	9	新	スクールカウンセラー活用	B	B
給食センター	10	継	食物アレルギー対応指針に基づく安全安心な学校給食の対応	B	A
	11	継	学齢期における食育の推進	B	A
社会教育課	12	継	コミュニティ・スクール事業	B	B
	13	継	青少年育成事業の推進	B	B
	14	継	理科の体験学習の推進	B	A
	15	継	通学合宿等の推進	B	B
	16	継	郷土芸能の体験学習の推進	B	B
読書推進課	17	継	ブックステーションの整備	B	B
	18	継	小中学校における図書整備の充実	B	A
	19	継	学校図書館活動の推進及び充実	B	A
郷土資料館	20	継	地域の遺跡・施設等の教材化と活用	B	B
	21	継	郷土資料館事業の充実	B	B